

<調査報告>

SDGsに関する意識調査報告 —宮城学院女子大学生のアンケートから—

佐藤 千洋

1. 調査の背景と目的
2. 調査の概要
3. 調査結果
4. まとめ

1. 調査の背景と目的

近年、地球規模での環境問題や経済・社会の問題がより深刻さを増す中で、SDGsへの関心は高まりを見せている。SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）の略称である。17のゴール（図1）と169のターゲットで構成され、地球上の



図1 SDGs17の開発目標

「誰一人取り残さない（leave no one behind）」という考えのもと、経済、社会、環境など広範な課題に対して、すべての国々が取り組むべき目標とされている¹。

目標 1：貧困をなくそう

…あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

目標 2：飢餓をゼロに

…飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

目標 3：すべての人に健康と福祉を

…あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

目標 4：質の高い教育をみんなに

…すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

目標 5：ジェンダー平等を実現しよう

…ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う

目標 6：安全な水とトイレを世界中に

…すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

目標 7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに

…すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

目標 8：働きがいも経済成長も

…包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう

…強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

目標 10：人や国の不平等をなくそう

…各国内及び各国間の不平等を是正する

目標 11：住み続けられるまちづくりを

…包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

目標 12：つくる責任 つかう責任

…持続可能な生産消費形態を確保する

目標 13：気候変動に具体的な対策を

…気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

¹ 外務省：SDGs とは、日本語、<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/mdgs.html>, 2021.3.10

目標 14：海の豊かさを守ろう

…持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

目標 15：陸の豊かさを守ろう

…陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

目標 16：平和と公正をすべての人に

…持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう

…持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

(出所) 外務省：SDGs とは、日本語、<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/doukou/mdgs.html>, 2021.3.10

日常生活の中でも、SDGs のロゴ、アイコン、ポスター、地方自治体・国、企業の広報誌、ホームページなどでも目にする機会は増えており、学校教育においても SDGs への取り組みが注目されている。

教育の現場では、「持続可能な開発のための教育 (ESD)」への理解が進んでいる。ESD とは、Education for Sustainable Development の略で、現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組む (think globally, act locally) ことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動である²。

ESD と SDGs の関係については、ESD は、SDGs の目標 4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」に位置付けられているものの、SDGs の 17 全ての目標の実現に寄与するものであり、持続可能な開発目標を達成するために不可欠な質の高い教育の実現に貢献するものとされている³。

2016 年 12 月に発表された中央教育審議会の答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では、「持続可能な開発のための教育 (ESD) は次期学習指導要領改訂の全体において基盤となる理念である」とされ、2017 年 3 月に公示された幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領および 2018 年 3 月に公示された高等学校学習指導要領では、全体の内容に係る前文及び総則において、「持続可能な

² 文部科学省：持続可能な開発のための教育，日本語，<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm>, 2021.8.31.

³ 同上

社会の創り手」の育成が掲げられることになった⁴。高等学校では、2022年度から年次進行で実施される次期学習要領において、「探究」が一つのキーワードとされ、「総合的な学習時間」が「総合的な探究の時間」に改められるほか、「理数探究」、「古典探究」など、各教科に「探究」の付いた科目が新設される⁵。

探究活動の過程は、①課題の設定（より複雑な問題状況、確かな見通し、仮説）、②情報の収集（より効率的・効果的な手段、多様な方法からの選択）、③整理・分析（より深い分析、確かな根拠づけ）、④まとめ・表現（より理論的で効果的な表現内容の深まり）、というプロセスを繰り返すことで、思考力、判断力、表現力等を深めていくことである⁶。SDGsの課題は、それぞれの社会や地域によって捉え方が異なっており、探究活動のプロセスとは親和性が高いことから、SDGsを取り入れる動きが拡大している。

では、日本の大学の取り組み状況とSDGsに対する意識はどのようになっているのだろうか。SDGsをもとに大学の社会貢献度を表した「THE 大学インパクトランキング 2020」⁷では、766大学のうち63大学は日本の大学が占め、エントリー数が最多となっている。また、先進国でありながら、「目標2：飢餓ゼロに」の項目では11大学がトップ100入りするなど、積極的な取り組みを見せている。100位以内にランキングした大学を見てみると、最上位が北海道大学で76位、次いで東京大学が77位、東北大学が97位となっており、足利大学、白鷗大学、恵泉女学園大学なども初めてランキングされるなど、地方大学や小規模大学の活躍も目覚ましい⁸。

大学生のSDGsに対する意識については、静岡市が平成30年に静岡市内の大学生に行った調査によれば、SDGsの認知度は28%で、うち認知経路は「学校」が最も多いという結果が示されている。また、「目標1：貧困をなくそう」が関心のある目標として一番多く、自身が貢献できる目標としては、「目標15：陸の豊かさを守ろう」が最も多かった⁹。

また、TSCP（the Todai Sustainable Campus Project：東京大学サステイナブルキャンパス

⁴ 前掲注2参照

⁵ 田村学（2019）「高等学校教育において、なぜ『探究』が重視されるのか」『Kawaijuku Guideline』（4・5月号）、p.30.

⁶ 文部科学省：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編、日本語、2017年7月、https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_013_1.pdf, 2021.8.23

⁷ 17の目標を指標化している。2回目となる今回は「SDG1 貧困」、「SDG2 飢餓」「SDG6 水・衛生」、「SDG7 エネルギー」、「SDG14 海の豊かさ」、「SDG15 陸の豊かさ」が追加され、SDGsの17項目すべてで参加できるようになった。

⁸ 株式会社ベネッセコーポレーション：THE 世界大学ランキング 日本版、日本語、<https://japanuniversityrankings.jp/topics/00161/>, 2021.9.1

⁹ 静岡市：SDGsに関するアンケート調査結果、日本語、https://b903dd75-d38c-4803-815b-b3b3d1e133ee.filesusr.com/ugd/6a3e77_3ec4602d23df4e078bd9f0852c796f42.pdf, 2021.8.25

プロジェクト) 学生委員会が東京大学学生(以下、東大生とする。)を対象に行ったSDGs意識調査によると、東大生のSDGs認知度は87%(2018年調査の63%と比べて、24ポイント上昇)とされている。就職先選びに企業のSDGs貢献度を考慮するかという問いに対しては、考慮する学生(“考慮する”と“少し考慮する”を合計)が68%となっており、SDGsへの貢献は、今や就職の際の大学生の企業選びに影響を与えている。また、非常に興味深いこととして、各課題の重要度認識を性別間で比較した結果では、全般的に各課題の重要度認識は、男性よりも女性が高い傾向を示していたことである¹⁰。

一方、企業側の課題として、SDGsの認知度が高まるにつれて、投資家、顧客、取引先、従業員などのステークホルダーからの評価を高めることが、企業の成長に大きな影響を与えるようになったことに加えて、SDGsとESG投資の関係も考慮しなければならなくなったことが挙げられる。ESGとはEnvironment(環境)、Social(社会)、Governance(ガバナンス)の頭文字をとった用語で、これら3つの観点から企業を評価し、投資先を決める投資方法である。ESG導入の背景には、2008年に起きたリーマン・ショックの反省から、機関投資家を中心に中期的な投資とESG投資に力を入れるようになったからである。

経済産業省の「SDGs経営ガイド」によれば、今後、消費者・従業員、投資家、そして起業家として、企業をとり巻くステークホルダーの中心となっていくのがいわゆる「ミレニアル世代」とされる。これら「SDGsネイティブ」の考えを持った人たちは、社会課題の解決が動機づけにもなっており、彼らの行動が企業の価値に大きな影響を及ぼすことから、企業にとっては就職先や投資先として、「ミレニアル世代」に選ばれることが重要になってきている。

これらの社会的背景を踏まえ本調査では、宮城学院女子大学(以下、本学とする。)の学生がSDGsについてどのような意識を持っているのか明らかにするために、アンケート調査を行った。また、これらの世代が、企業のSDGs活動をどのように理解し、どのような期待を持っているのかについての調査も併せて試みた。

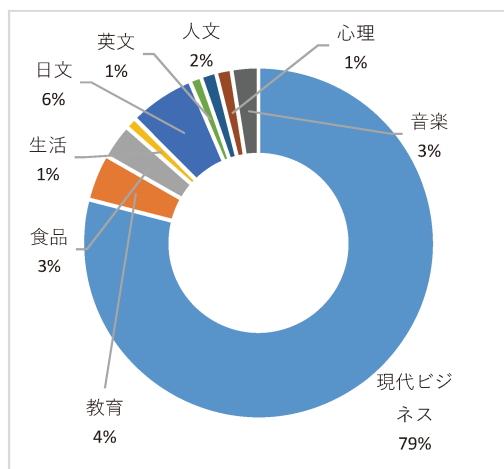
なお、本調査は、本学現代ビジネス学部佐藤千洋ゼミナールの実践研究課題の一環として、2021年度「ビジネス実践研究Ⅱ」、「ビジネス研究演習A」の履修生18名とともに行ったアンケート調査をまとめたものである。

¹⁰ TSCP学生委員会：東大生のSDGs意識調査2020結果報告書、日本語、https://b903dd75-d38c-4803-815b-b3b3d1e133ee.filesusr.com/ugd/6a3e77_3ec4602d23df4e078bd9f0852c796f42.pdf, 20201.8.23

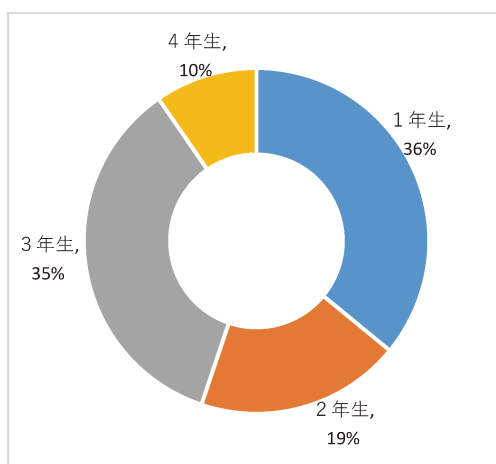
2. 調査の概要

本学に通う学生のSDGsに関する意識を把握するために、アンケート調査を実施し、281人（内訳：アンケート用紙による回答が205人、Googleフォームによる回答が76人）から回答を得た。実施時期は、2021年7月1日（木）～7月15日（木）である。図2および図3は、回答者の属性を示したものである。

回答者は、現代ビジネス学科が全体の約8割を占める。コロナ禍の影響で対面授業が制限されていることから、つながりの強い現代ビジネス学科が多数を占める結果となった。なお、Googleフォームによる調査では、約3割の他学科学生の回答を得ることができた。



281人の回答
図2 学科別



281人の回答
図3 学年別

3. 調査結果

調査結果については、設問ごとに集計を行い、必要に応じてコメントを述べるとともに、他大学の調査結果と同一あるいは類似した項目については、比較を行った。

Q1：SDGs認知度

「Q1：あなたはSDGsという言葉を目にしたことがありますか」という問いに対しては、90%の学生が目にしたことがあると回答し、SDGsに対する認知度（目にしたことがある人）は高いことが分かる。（図4）

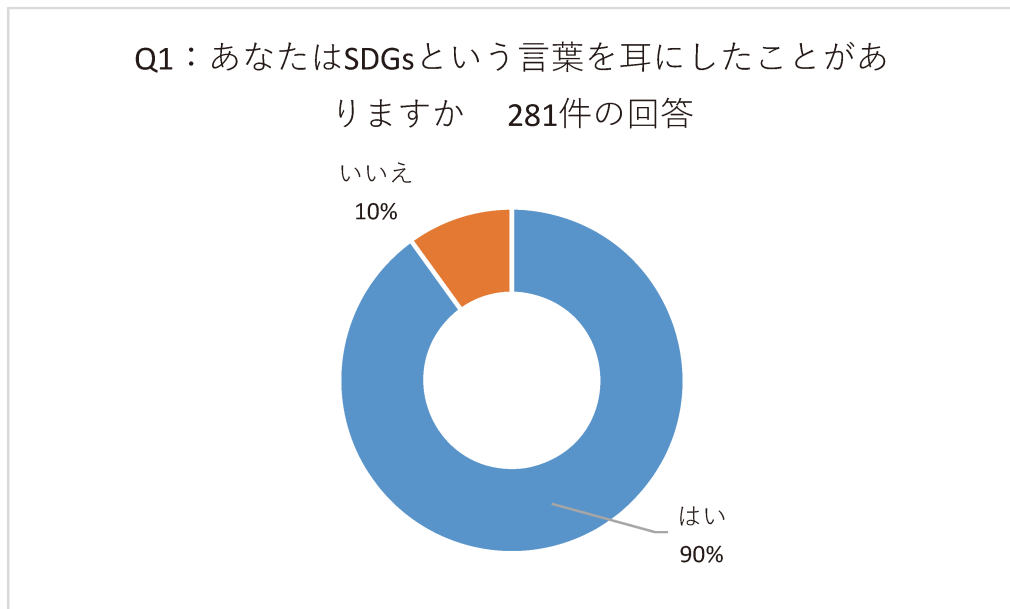


図4 SDGs認知度

因みに、山形大学の調査では89%¹¹、東京大学の調査では87%¹²となっており、大学間による違いは見受けられない。

Q2：媒体

「Q2：SDGsをどこで知りましたか（複数選択可）」という問いに対しては、「テレビ番組・ニュース」で知った学生が最も多い。これは、テレビ番組やニュースで取り上げられたり、特集が組まれたりすることが多いことから、学生にとっては有効なSDGs認知の機会となっていると考えられる。次いで、「小中高の授業」が多く、大学に入る以前に既にSDGsを認知していることが分かった。また、「インターネット」や「SNS」など、ソーシャルメディアからの情報で知った学生が多い。（図5）この調査結果を見る限り、新聞からの情報はあるものの（5%）、いわゆる紙媒体からの認知は少ないことが分かる。

¹¹ 山形大学：SDGsに関する意識調査アンケート（第2回）について、日本語、https://sdgs.yamagata-u.ac.jp/bulletin/attach_images/filed06046e17311ddb.pdf, 2021.8.31

¹² TSCP学生委員会：東大生のSDGs意識調査2020結果報告書、日本語、https://b903dd75-d38c-4803-815b-b3b3d1e133ee.filesusr.com/ugd/6a3e77_3ec4602d23df4e078bd9f0852c796f42.pdf, 20201.8.23

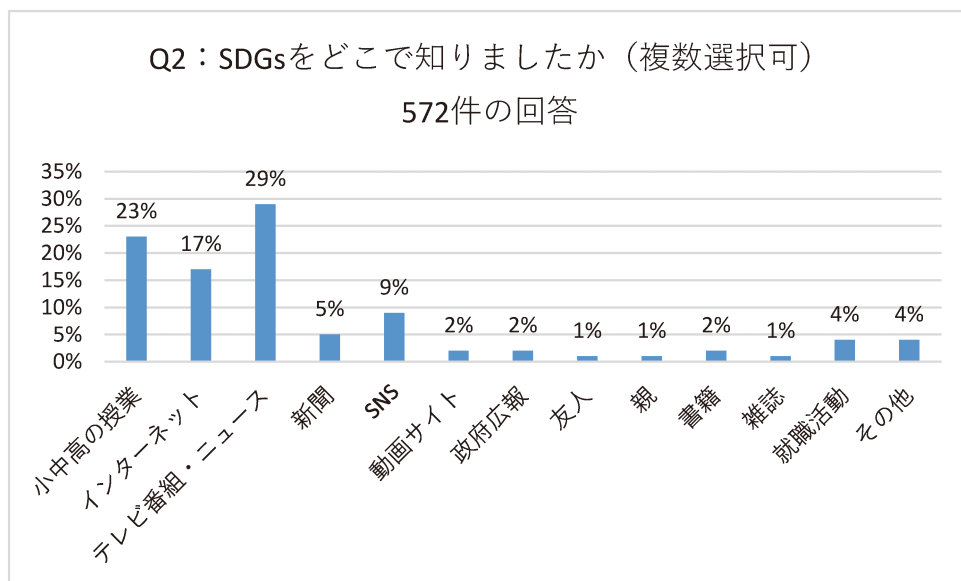


図5 媒体

Q3：耳にしたことがある目標

「Q3：SDGsの17の目標のうち、耳にしたことがある目標を教えてください（複数選択可）」という問いに対しては、それぞれの目標についてはまんべんなく知っているものの、「目標1：貧困をなくそう」が一番多く、次に「目標5：ジェンダー平等を実現しよう」の順となった。一方、最も回答数が少ないのが「目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう」であった。（図6）これらの結果から、内容についての理解の度合いはともかくとして、多くの目標を耳にしていることが分かる。

Q4：大切（関心がある）だと思う目標

SDGsの17の目標について、「大切（関心がある）だと思う目標を教えてください（複数選択可）」という質問に対して、重要と考える目標の上位は、「目標5：ジェンダー平等を実現しよう」、次いで「目標1：貧困をなくそう」、「目標10：人や国の不平等をなくそう」、「目標16：平和と公正をすべての人に」などの目標が上位を占めているが、「平等」、「公正」という文言が入った目標に対して関心を示していることが分かる。別の見方をすれば、今自分の置かれている環境あるいは一部の人々が置かれている環境が、「平等」や「公正」でないと考えている可能性がある。

一方、「目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう」、「目標7：エネルギーをみんなにそして

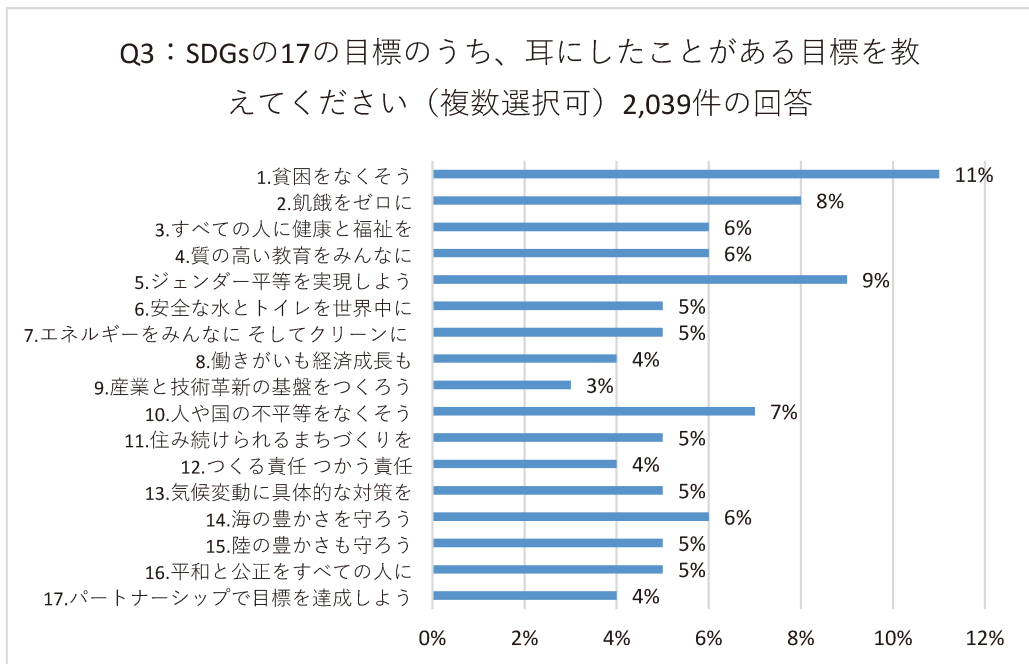


図6 耳にしたことがある目標

クリーンに」、「目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう」は、関心が薄い目標となっている。（図 7）

この調査項目については、山形大学の調査¹³では、全ての目標にまんべんなく興味があると回答していたのに対して、本学の学生は興味がある目標と興味の薄い目標に分かれる傾向が見受けられ、山形大学の調査とは結果を異にするものとして注目している。

Q5：貢献（行動）できると思う目標

「貢献（行動）できると思う目標を教えてください（複数選択可）」という問いに対しては、「目標 14：海の豊かさを守ろう」、「目標 12：つくる責任つかう責任」、「目標 15：陸の豊かさを守ろう」と答えた学生が多かった。一方、貢献しにくいと考えている目標は、「目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう」、次いで「目標 4：質の高い教育をみんなに」となっており、「目標 3：すべての人に健康と福祉を」、「目標 8：働きがいも経済成長も」、「目標 1：貧困をなくそう」、「目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう」なども、貢献は難しいと考えている。（図 8）

¹³ 山形大学：SDGsに関する意識調査アンケート（第2回）について、日本語、https://sdgs.yamagata-u.ac.jp/bulletin/attach_images/filed06046e17311ddb.pdf, 2021.8.31

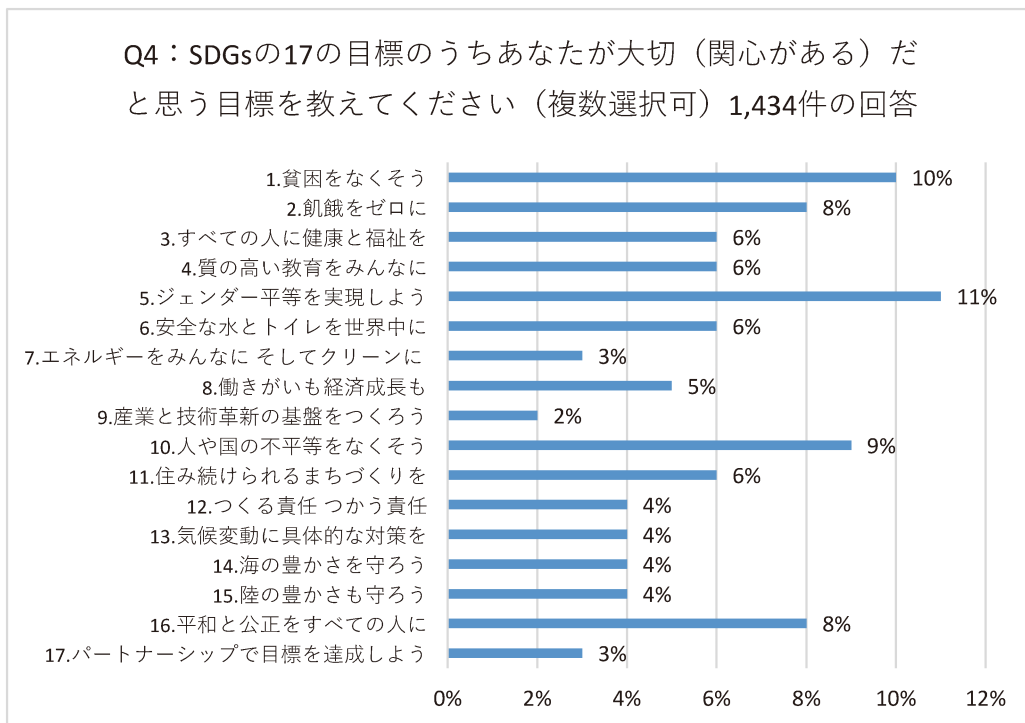


図7 大切（関心がある）だと思う目標

「目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう」については、Q4の回答と同様に個人の取り組みでは難しいと思うのと、この目標は企業が取り組むべき目標であると捉えての回答と考えられる。

また、Q4で大切（関心がある）だと思う目標では関心が低かった「目標14：海の豊かさを守ろう」、「目標15：陸の豊かさを守ろう」は、多くの学生が貢献できると答えている。これは目標自体が漠然としている上に、多くの内容を含んでいる目標であることから、何となく貢献できそうと考えての回答と推測される。

「目標12：つくる責任 つかう責任」については貢献できる目標として多くの回答があったが、「つくる」というよりは「つかう責任」の方で、各自が普段使っている身近なものを想像しての回答と考えられる。

一方、「目標1：貧困をなくそう」は、Q3で「耳にしたことがある」、Q4で「大切（関心がある）だと思う」と回答した学生が多かったにも拘らず、貢献するのは難しいと捉えている。

Q3で「耳にしたことがある」、Q4で「大切（関心がある）だと思う」で多くの学生が回答した「目標5：ジェンダー平等を実現しよう」については、自分自身でも貢献できると考えて

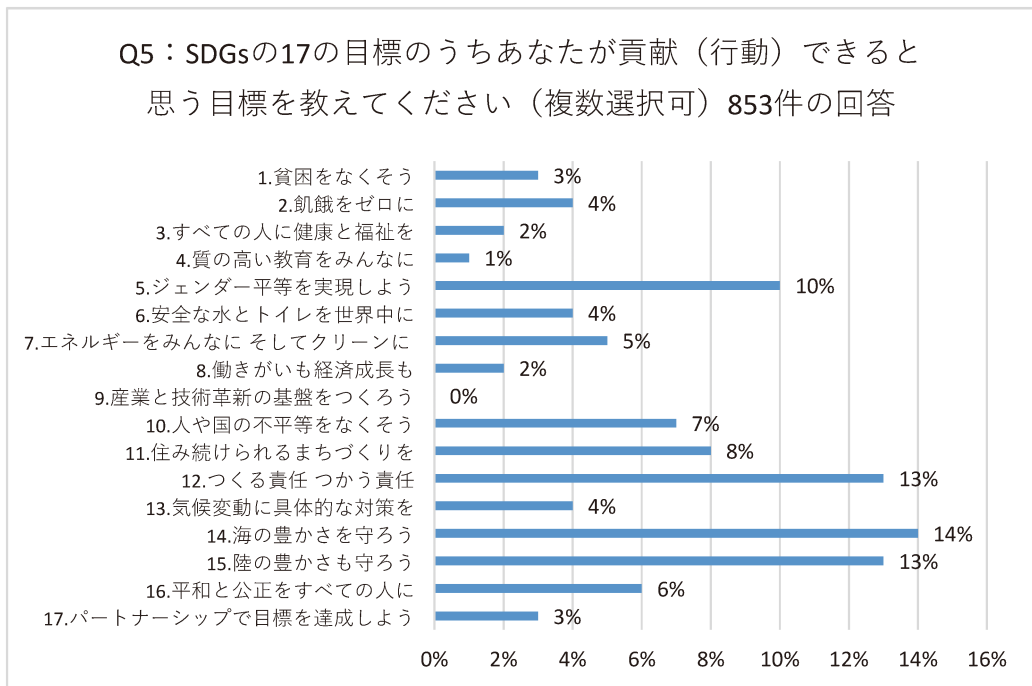


図8 貢献できると思う目標

いる学生が多い。

Q6：誰が積極的に取り組むべきか

「Q6：SDGsについて、「誰が積極的に取り組むべき」だと思いますか（複数選択可）」という問いに対しては、「国・自治体」と回答した学生が最も多く、次いで「個人」となった。（図9）

目標の中には国家レベルでなければ達成が難しい目標も含まれており（例えばゼロエミッションを達成しようとした場合、電力調達を何に頼るかなど）、「国・自治体」が率先して取り組むべきであるという考えからの回答と推測される。また、2番目に多い「個人」としたのは、次のQ7「SDGs達成のために取り組んでいること」の回答からも見られるように、身近で生活に密着した目標を思い浮かべての結果であると考えられる。

山形大学の調査では、「企業」と答えた人が2番目に多かったことと比較すると、本学の学生は「企業」に対して期待するよりは、「個人」が積極的に取り組むべきと考えている学生の割合が高いことが分かる。

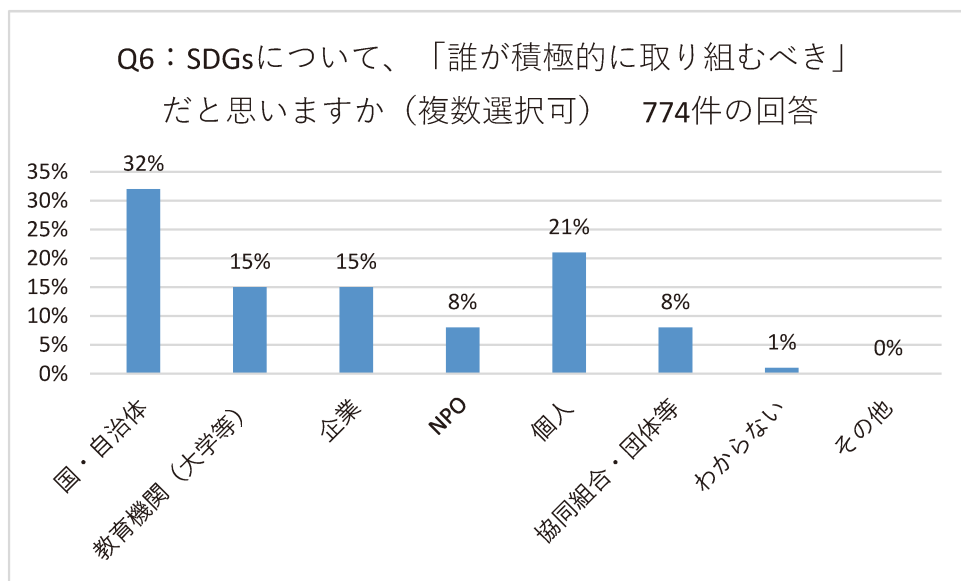


図9 誰が積極的に取り組むべきか

Q7：取り組んでいること

「Q7：SDGs 達成のためにあなたが取り組んでいるものはありますか（複数選択可）」という問いに対しては、「エコバッグ・マイボトルなど」が最も多く、次いで「食べ残しをしない」、「節電・節水を心がける」の順であった。「フェアトレード」、「オーガニック商品」に取り組んでいる学生が少ないという結果になった。（図10）

この結果から、自分の生活に密着し、手軽に取り組める項目が上位を占めており、一方、「フェアトレード」や「オーガニック」は、例え利用したい気持ちがあっても一般的に値段が高いことや、それがフェアなトレードによってつくられた商品なのか、本当にオーガニック商品なのかを識別しにくいことにも起因していると考えられる。

Q8：取り組めそうなアイデア

「Q8：普段の生活の中でSDGsを意識して取り組めそうな“ちょっとしたこと”のアイデアを教えてください（自由記述）」については、163件もの意見が寄せられた。類似した意見をまとめたものが、図11である。「ごみを減らす」関連が18%、「マイバッグ・マイボトル」関連が16%、「フードロス」関連が14%の順となった。以下、「節水・節電」、「リサイクル」などがこれに続く。（図11）

これらは、前問のQ7で既に実践されているものが占めており、また、Q7の選択肢にはな

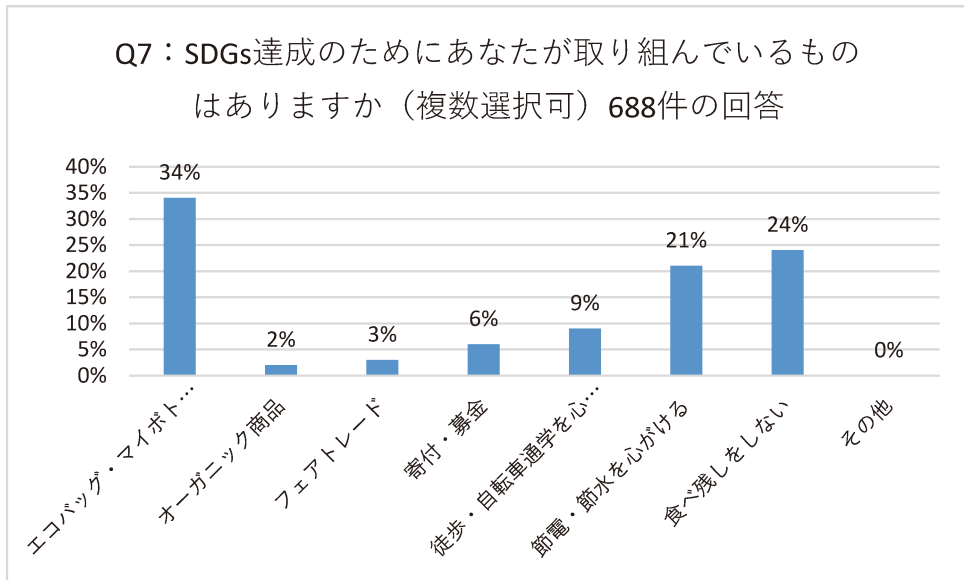


図10 取り組んでいること

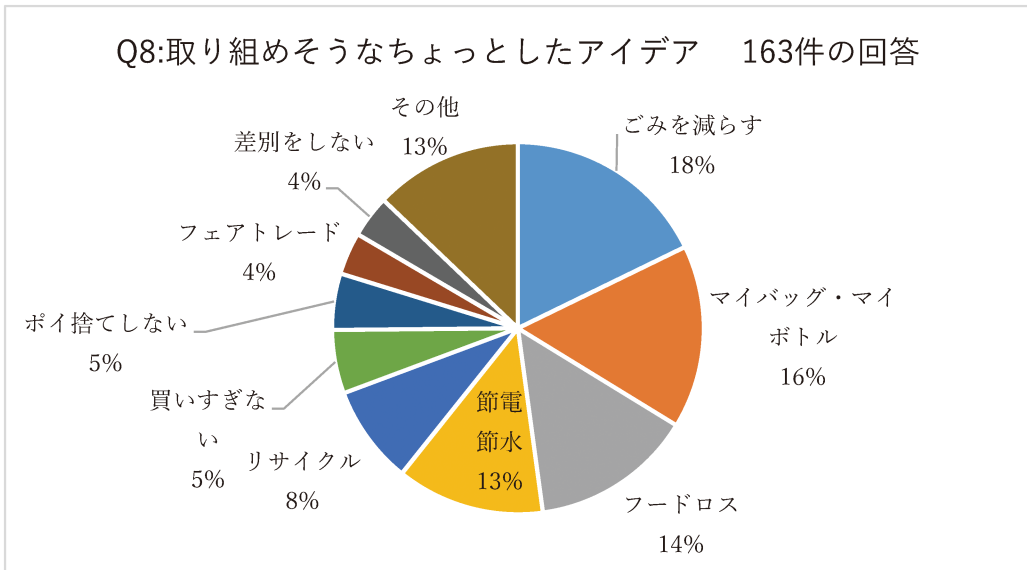


図11 取り組みそうなアイデア

かった「ごみを減らす」が多かった。いずれも、自分のちょっとした努力で取り組むことが可能であり、これらはすべてSDGsの掲げる17の目標に沿った行為である。

さらに整理すると、お弁当やマイバッグ・マイボトルの持参、買いすぎない・フードロスを防ぐ、リサイクルに努める、ポイ捨てをしないなどは、全て「ごみの削減」で括ることができ(66%)、「節水・節電」(13%)と合わせると、およそ8割が資源・環境の保護に関わるアイデアという結果になった。

また、「フェアトレード」は、貧困対策や人権の保護、「差別をしない」はジェンダー・多様性を認めるなどの項目に対してのアイデアも多かった。木を植える、家庭菜園などは、面白いアイデアである。

以下は、代表的な意見をピックアップしたものである。

【ごみを減らす】

- ・ ランチをコンビニ等で購入せず、お弁当を持ってくる
- ・ ごみを出さないように心がけて買い物、消費をする
- ・ 生ごみを出さないようにする。

【マイバッグ・マイボトル】

- ・ ペットボトルを買わずに水筒を持つ
- ・ 自販機にマイボトル持参ボタンを作る
- ・ エコバックの使用

【フードロス】

- ・ すぐに食べるものは、消費期限が近いものを選んで買う
- ・ 食べられる分のみ買う
- ・ レストランの食べ残しを持ち帰る

【節水・節電】

- ・ 不必要に電力を使わない
- ・ トイレの電気をセンサーにする
- ・ 水を出しっぱなしにしない

【リサイクル】

- ・ ペットボトルをポイント交換としてリサイクルする
- ・ 使わないものを捨てるのではなく、うまく他のものに利用できないか、他の場所で使えないかを考えてものを扱う
- ・ ペットボトルを利用して子供のおもちゃにする

【買いすぎない】

- ・ よく考えて購入する、無駄遣いをしない
- ・ 最低限で暮らす

【ポイ捨てしない】

- ・ ポイ捨てしない、ゴミの分別

【フェアトレード】

- ・ チョコレートを買う際、フェアトレードのものを買う、募金に協力する
- ・ フェアトレード製品のチョコやサラヤの製品を使う（売り上げの一部が途上国に寄付される、持続可能な素材を使っている）
- ・ 商品が作られた経路について考える（安価で環境の悪い中で子供が労働させられていないか）

【差別をしない】

- ・ ジェンダー差別をしない
- ・ 多様性を認める

【その他】

- ・ 公共のものを綺麗に使う
- ・ 一家に一本木を植える
- ・ 家庭菜園をはじめ

Q9：企業に取り組んで欲しい目標

ここからは、Q6で「企業」と回答した人への設問である。これらは、本ゼミナールのテーマの一つである「地域の中小ものづくり企業との連携」に関連した設問となっている。

「Q9：企業に取り組んで欲しいSDGsの目標は何ですか（複数選択可）」という問いに対しては、「目標8：働きがいも経済成長も」が一番多く、次いで「目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう」、「目標5：ジェンダー平等を実現しよう」、「目標12：つくる責任つかう責任」と続いた。（図12）

一番多かった「目標8：働きがいも経済成長も」は、自身が就職した後のことを想定しての回答になっていると考えられる。

Q10：企業の取り組みについての認知手段

「Q10：企業が行っているSDGsの取り組みについてどのようにして知りましたか（複数選択可）」という問いに対しては、「番組や記事などのメディア（新聞、テレビ、ウェブニュース、雑誌など）」が最も多く、次いで「企業が直接発信する情報」の順となっている。（図13）

一方、選択肢の中にある、「身近な人との会話」や、「社員・店員などを通して」、あるいは

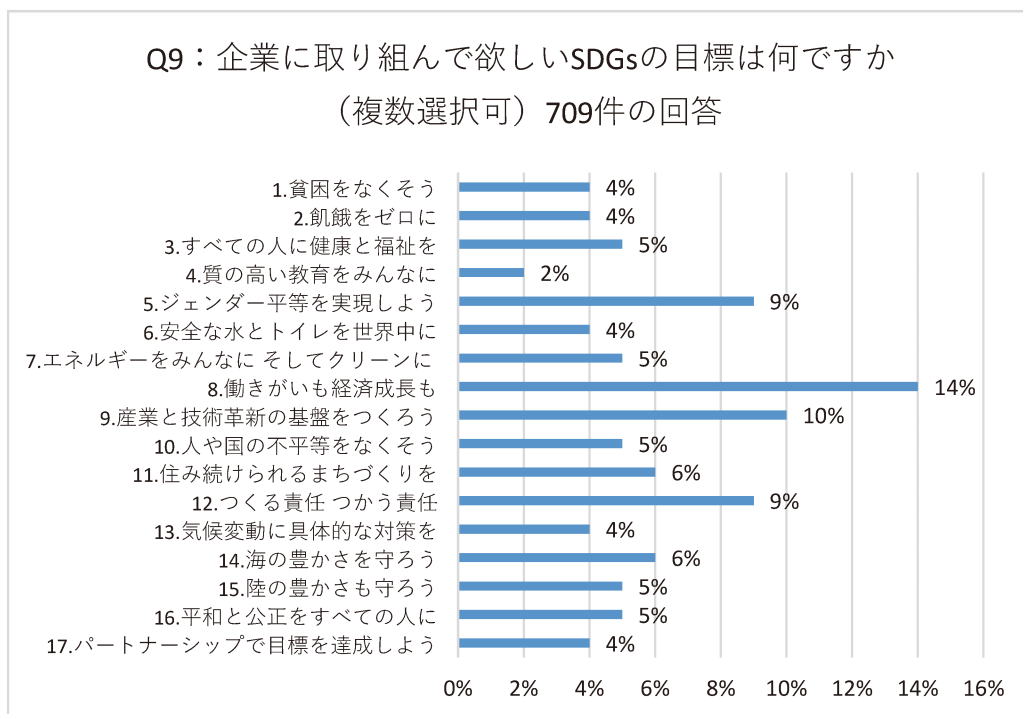


図12 企業に取り組んで欲しい目標

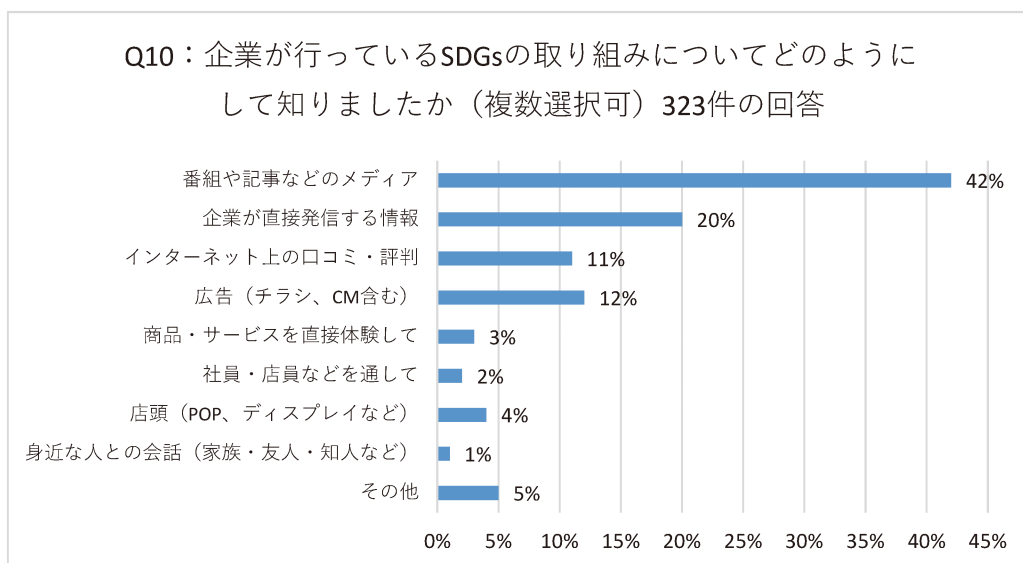


図13 企業の取り組みについての認知手段

「商品・サービスの直接体験」から企業の取り組みを知った人は極めて少なく、日常生活の中でのSDGsへの関心はさほど高くないと推測される。

Q11：企業が優先的に取り組むべき目標

最後に、「Q11：企業が優先的に取り組むべき目標は何だと思えますか（複数選択可）」という問いに対しては、「目標8：働きがいも経済成長も」が最も多く、次いで「目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう」、「目標12：つくる責任つかう責任」、「目標5：ジェンダー平等を実現しよう」の結果だった。これらについては、Q9の設問と類似していたこともあり、ほぼ同じ結果となった。（図14）

「目標5：ジェンダー平等を実現しよう」に多くの回答が寄せられているが、これは、今でも一部企業において、ジェンダーの違いによる雇用形態や賃金格差等の問題が存在するかもしれないといった懸念からの回答と推測される。

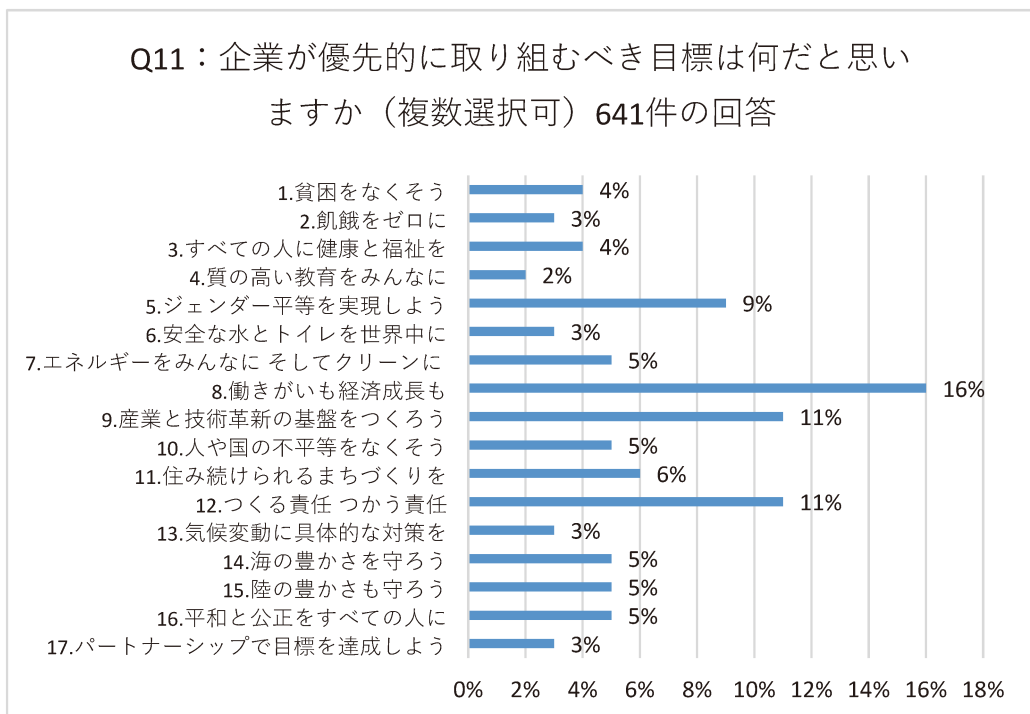


図14 企業が優先的に取り組むべき目標

4. まとめ

本調査は、現代ビジネス学部佐藤千洋ゼミナールの実践研究課題の一環として、本学学生を対象に行ったSDGsに関する意識調査（回答者数281人）の結果をまとめたものである。アンケート結果については、11の設問ごとに集計し結果をまとめたが、今回の調査結果から読み取れる本学学生の大まかな傾向として、SDGsに対する認知度・関心の度合いは高く、個人がやるべきことと、国や企業がするべきことが整理されており、現実的で、身近なもの、自分で出来ることを確実に実行しようとする堅実な考えを持っていることがうかがえた。

本調査は、宮学生を対象に行ったSDGs意識調査の結果を迅速に報告するためにまとめたものであり、今後はサンプル数を増やし本学学生の意識の経年変化を調査していきたい。さらに、企業のSDGs貢献が強く望まれる中で、就職先の選択や投資先を選択する際に大学生がとる行動は、今後の企業価値やサステナビリティに大きな影響を与えることになると考えられる。企業と大学生のSDGs意識についてどのようなギャップがあるのか、そしてそれらをどのように活かし、企業経営におけるSDGsを進めていくべきかについても調査を重ね、論文にまとめる予定である。

〔謝辞〕

この報告書を作成するにあたり、アンケート調査にご協力いただきました皆さまには心より感謝申し上げます。

- 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
12 13 14 15 16 17

Q4. 上記のSDGsの17の目標のうちあなたが大切(関心がある)だと思う目標を教えてください。(複数選択可)

- 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
12 13 14 15 16 17

Q5. 上記のSDGsの17の目標のうちあなたが貢献(行動)できると思う目標を教えてください。(複数選択可)

- 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
12 13 14 15 16 17

Q6. SDGsについて、「誰が積極的に取り組むべき」だと思いますか。(複数選択可)

- 国・自治体 教育機関(大学等) 企業(→※) NPO 個人
協同組合・団体等 わからない その他()

Q7. SDGs達成のためにあなたが取り組んでいるものはありますか。(複数選択可)

- エコバッグ・マイボトルなど オーガニック商品 フェアトレード 寄付・募金
徒歩・自転車通学を心がける 節電・節水を心がける 食べ残しをしない その他
()

Q8. 普段の生活の中でSDGsを意識して取り組めそうな“ちょっとしたこと”のアイデアを教えてください。(自由記述)

※Q6で「企業」と回答した人にお聞きします。

Q9. 企業に取り組んで欲しいSDGsの目標は何ですか。(複数選択可)

- 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
12 13 14 15 16 17

Q10. 企業が行っているSDGsの取り組みについてどのようにして知りましたか。(複数選択可)

- 番組や記事などのメディア(新聞、テレビ、ウェブニュース、雑誌など)
企業が直接発信する情報 インターネット上での口コミ・評判
広告(チラシ、CM含む) 商品・サービスを直接体験して 社員・店員などを通して
店頭(POP、ディスプレイなど) 身近な人との会話(家族・友人・知人など) その他()

Q 11. 企業が優先的に取り組むべき目標は何だと思えますか。(複数選択可)

- 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
12 13 14 15 16 17

ご協力ありがとうございました。

SDGs Awareness Survey
—From a Questionnaire Survey of Students at Miyagi Gakuin
Women’s University—

Chihiro SATO

This study is an analysis of a survey on the awareness of sustainable development goals (SDGs) among students at Miyagi Gakuin Women’s University. It attempts to investigate how this generation perceives corporate SDG initiatives and their expectations.

The survey deduced that awareness of the SDGs was high, with 90% of students responding that they had heard of the SDGs. Regarding which goals they considered to be important (or were interested in), the most common were “Goal 5: Achieve gender equality,” “Goal 1: End poverty,” “Goal 10: Reduce inequality within and among countries,” and “Goal 16: Promote peaceful and inclusive societies for all,” indicating that there was a high level of interest in goals focused on “equality” and “fairness.”

Simultaneously, the goals with the least interest included “Goal 9: Build resilient infrastructure, promote inclusive and sustainable industrialization and foster innovation,” and “Goal 7: Ensure access to affordable, reliable, sustainable and modern energy for all,” indicating that there was a low level of interest in the areas of science and technology, as epitomized by the terms “industry,” “technological innovation,” and “energy.”

In response to the question of who should take an active role, the most frequent response was “national and local governments,” followed by “individuals.” This contrasts with a survey conducted at other universities, where the second most frequent answer was “companies.” Accordingly, this indicates that more students at this particular university believe that individuals should be proactive rather than expecting companies to act.

In addition, with respect to the goals that companies should prioritize, we deduced that respondents wanted companies to give the highest priority to “Goal 8: Promote sustained, inclusive and sustainable economic growth, full and productive employment and decent work for all.” This is the goal they wanted companies to tackle in Q9, indicating that the goals they believe should be prioritized are consistent.

This survey determined that the students at this university tend to have a high level of

awareness of the SDGs, and they also have definite opinions about what is realistic and familiar to them and what they can achieve by themselves.